

2024年3月17日

代表発表者：こころのホスピタル町田 地域医療部長 山形弘隆

【発表のポイント】

- ・多職種医療スタッフにおけるせん妄の知識をeラーニング講習前後で比較しました。
- ・せん妄の知識には偏りがあり、せん妄は意識の障害で、身体疾患や薬剤などによって誘発されるという理解が不十分でした。
- ・せん妄に対して有効性が十分に確かめられた薬物治療はほとんどないということへの理解が不十分でした。
- ・eラーニング講習終了後、せん妄の知識は大幅に増加しました。

キーワード：せん妄、eラーニング、リエゾン精神医学、スタッフ教育、チーム医療

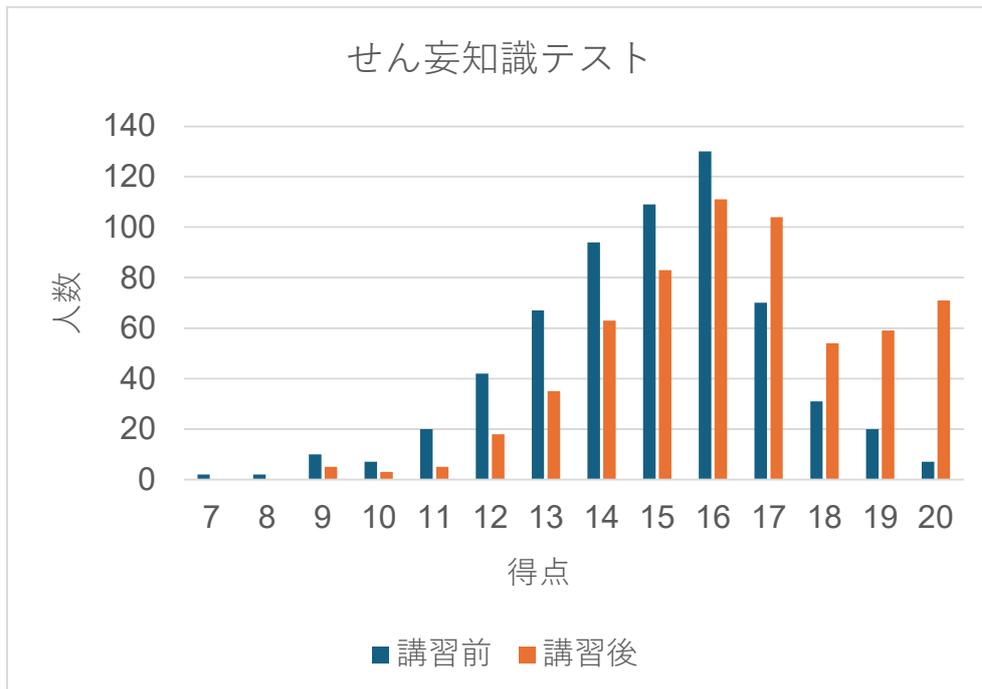
【概要】

こころのホスピタル町田の山形弘隆地域医療部長、海老名総合病院の滝原崇久副院長、小林理恵子看護師、広瀬病院の廣瀬憲一理事長らは、多職種の医療スタッフに対してせん妄（注1）のeラーニング講習を行い、講習効果がせん妄の知識を向上させるかどうかを調べました。医師、看護師、看護補助者、薬剤師、非専門職スタッフを含む611名が本研究の調査対象となりました。40分間のオンデマンドeラーニングコースの前後で、20問のせん妄に関する知識テストを実施しました。

講習前では、せん妄が意識の障害であること、せん妄が身体疾患や薬剤によって誘発される可能性があること、その治療に効果が十分確かめられた薬剤がほとんどないこと、などの理解が不十分でした。しかし、せん妄に対する関わり方や薬物を用いない治療介入については、eラーニングを受ける前から十分に理解されており、せん妄の知識には偏りが認められました。短いeラーニング講習後に、せん妄の知識スコアは大幅に増加しました（下図）。

本研究の成果は、一般病院に勤務する医療スタッフのせん妄に関する知識を高めるために、せん妄の原因、診断、薬理的治療を含む教育と普及活動が重要であることを示唆しています。また、多忙なスタッフのせん妄教育方法として、eラーニングが有効である可能性を示すことができました。せん妄教育を充実させ、多職種によるチーム医療を促進するためには、リエゾン精神医療（注2）がますます重要になると考えられました。

本研究は2025年3月16日、ワイリー社が発行するPsychiatry and Clinical Neurosciences Reportsの電子版に掲載されました。



【研究に至った背景】

せん妄は様々な精神症状を伴う軽度から中等度の意識障害であり、症状が他の精神疾患と重複しているため、経験豊富な精神科医がせん妄のサポートを行うリエゾン精神医学が重要です。しかし、日本の総合病院の75%は精神科が無く、多くの病院が精神科医不在の中でせん妄の予防と対策を行っていますが、せん妄教育の取り組みは依然として不十分です。また、せん妄に関する知識と教育介入の影響を調査した研究は限られていました。

【用語解説】

- (注1) せん妄：幻覚、妄想、興奮などの様々な精神症状を伴う軽度から中等度の意識障害で、高齢者によくみられます。入院患者の死亡率の上昇や入院期間の長期化、危険行動による事故などとの関連が指摘されています。
- (注2) リエゾン精神医療：“リエゾン”とはフランス語で「連携・橋渡し」を意味する言葉です。身体疾患で入院中の患者が何らかの精神心理面の問題を抱えた場合に、精神科医が担当各科の医師や看護師などと「連携」しながら支援を行うことを指します。

【原論文情報】

論文名 : Medical staff's knowledge of delirium by occupation and the effectiveness of an on-demand e-learning

著者 : Hirotaka Yamagata, Rieko Kobayashi, Kenichi Hirose, Tomoe Seki, Takahisa Takihara

掲載誌 : PCN Reports

DOI: <https://doi.org/10.1002/pcn5.70078>

【お問い合わせ先】

こころのホスピタル町田 地域医療部長 山形弘隆

電話 042-797-0957 FAX 042-797-0126